

## ■ ■ 中学校第1学年1組 道徳科学習指導の実際と考察

日 時：令和4年12月1日（木）第2校時

授業者：■■■■■■■■ 中学校 教諭 ■■■■■■■■

授業テーマ	主人公の心の変化について考えることを通して、相手の立場や気持ちに配慮した思いやりについての考えを深めることができる授業
-------	---

1 主題名 その人が本当に望んでいること B-（6） 思いやり、感謝

2 教材名 「思いやりの日々」（出典：「新訂 新しい道徳1」東京書籍）

### 3 主題設定の理由

#### （1） ねらいとする道徳的価値について（価値観）

思いやりと感謝の心は、潤いのある人間関係を築く上で欠かすことのできない大切なものである。思いやりとは、単に人に何かを施してあげることではない。黙って温かく見守るといった表に現れない場合もある。その心の根底には、相手の気持ちを推し量り、その人のために思う、人間尊重の精神に基づく人間に対する深い理解と共感がなければならない。人間は様々な社会集団に所属し、その一員として協力し合わねば、生きることや成長すること、生活を豊かにすることができない。人との関わりの中で、温かい人間愛の精神を深め、模索し続けることが必要である。

#### （2） 生徒の実態について（生徒観）

中学1年生ともなると、人間愛に基づく他者との関わりをもつことの大切さを理解できるようになってくる。6月実施のアンケートの結果では、「相手のことを思いやり、親切にしている」に対して肯定的な評価は89%であった。しかし、仲のよい友達の間では思いやりのある言葉を掛け合うことがあっても、そうではない友達には無関心な様子が見られることもある。また、相手の気持ちを考えない言動もまだまだ多い。中学校生活にも慣れ、特定の間人間関係が出来上がってきたこの時期に、相手の気持ちを考えた思いやりとは何かを深く考え、自分も他者も、誰もが共に関わがえのない存在であることを自覚できるようにしたい。

#### （3） 教材及び指導について（教材観及び指導観）

本教材は、自分の思いを通してしまい、妻の思いを十分に理解できなかった後悔を踏まえ、相手の意思を尊重し、よりよい人間関係を築こうとする主人公の和威さんの新たな関わり方が描かれている。後半では、何から何まで手を差し伸べるのではなく、相手の思いや未来のことまで考えて、見守ることで思いやりを行動に表す和威さんが描かれている。和威さんの変化の理由について考えることを通して、本当の思いやりとは何かを考えることができる教材である。

導入では、生徒がこれまで思いやりをもって接してきた場面を想起させながら、思いやりには様々な捉え方があることに気付かせることで、本時の学習問題を自分事として捉え、思いやりに対する問題意識を高めることができるようにする。展開では、和威さんが妻や道子さんに対してどのような気持ちで接していたのか共感的に押さえる。中心発問では、相手の受け止め方の違いについて、全体でじっくりと考えることができるようにしたい。「見守るだけで思いやりと言えるのか。」等、ゆさぶりの発問を投げかけ、多様な考えを引き出すことで、本当の思いやりとは何かについての考えを深めていきたい。そのうえで、これまでの自分が、相手の立場や気持ちを考えて行動できていたかについて具体的に見つめなおす時間を、十分に確保できるようにする。

### 4 本時のねらい

障がいをもつ人と関わった主人公の気持ちを考えることを通して、本当の思いやりとは何かを理解し、相手の立場や気持ちに配慮した思いやりの心をもってともに生きようとする心情を育てる。

### 5 実際の板書



3 多様な指導方法に基づいた授業実践



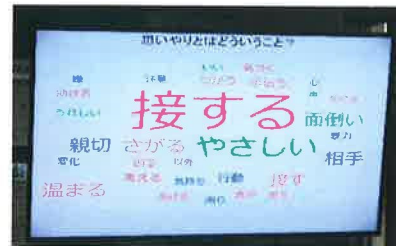


## 7 考察

自他の考え方・感じ方を受けとめる（多面的・多角的に考える）及び自己を見つめなおす（自己を見つめる）指導の工夫の視点から

(1) 自他の考え方・感じ方を受けとめる（多面的・多角的に考える）について

○ 喜美世さんと道子さんの二つの場面を比べ、「どちらが本当の思いやりなのか」を全体で議論する際に、黒板にネームプレートを位置付けることで、立場を明確にすることができた。また、様々な理由について引き出すことで、思いやりに対する考えを広げたり深めたりすることができた。



○ 中心発問に対する生徒の反応をあらかじめ想定し、ゆさぶりの発問を複数用意していたことで、思いやりに対する考えをさらに深めることができた。また、二つの思いやりを比較する内容の発言を基に、生徒の発言をつないでいくことで、本時のねらいとする価値にぐっと迫ることができた。

● 円座の形にすることで、自分の意見を安心して発表できるようにした。全体での話し合いの際、生徒の考えを教師が受けとめて、他の生徒につなぐ場面がまだまだ多かった。今後は、生徒が互いの意見を受けて、積極的に発表できるようにしていきたい。



(2) 自己を見つめなおす（自己を見つめる）について

○ これまでの体験を振り返る前に、「本当の思いやりとはどういうことか」を考えることで、自分が考えた思いやりについて、整理できるようにした。

〈本当の思いやりとは…〉  
相手のことを考えて、相手が自分でやるという時はその人に任せて、どうしても出来ないことだけ手伝うのが本当の思いやりだと思う。

○ 生徒は、「相手がどう受けとめたか」を基準に、自分の経験を具体的に振り返ることができた。なかなか思い浮かばない生徒に対しては、自分が思いやりの心を相手に向けていたかという意識がなくても、相手が喜んでいたりすることなどを思い浮かべるように促したところ、自分の思いやりにつながる行為を想起することができた。また、生徒の記述より、自分自身の行為を肯定的に受けとめていることが、推察された。

☆ 今までの自分は、相手の立場や気持ちを考えて相手を手伝うことはできていたが、

ぜんぜんできていなかった	あまりできていなかった	だいたいできていた	できていた
--------------	-------------	-----------	-------

ええねほんぶんことであらう？

小学生の頃、低学年の子と遊ぶことがあって、その低学年の子が自分でやりたいと言っていたから、一人でやらせていたら、あまりできていなかった。だから私は、「大丈夫？」と言って励ましながら少し手伝いました。

● 振り返りの時間を20分で計画していたが、13分程度となってしまったため、各自が振り返ったことを共有する時間が取れずに残念だった。生徒が振り返ったよさを、互いに認め合う時間も大切にしていきたい。

子ども一人一人を受けとめて、認め励ます評価の視点から

(1) 学習状況について

表出された生徒の考えのよさについて、まずは教師が受けとめることが大切であることを実感することができた。

(2) 道徳性に係る成長の様子について

今後も、生徒一人一人の考えを大切に、それらの考えを意図的に紡いでいきたい。また、道徳科以外の時間においても、相手の気持ちを考えて思いやりについて考える機会を意識して設定することで、生徒が自分も他者も誰もが共に関わることができる存在であることを自覚できるようにしていきたい。

